2026/11/16

＜白金標準、2027 年に向けたロングポジションのエントリーチャンス・・＞



（出所：オアシス）

金同様に、白金標準先物も売られ過ぎた 6737 円の安値から 1043 円の戻りを見せ、7780 円を試すも消費者物価指数（CPI）の発表やウォラーFRB 理事が 0.5%の利上げを示唆するなど、FRB 関係者のタカ派の発言を受け、週末には 7341 円まで下値を試している。

ただ金標準先物に比べ、白金標準先物は 1043 円の戻りに対する黄金比で示す 0.382 の 7381 円、0.5 の 7258 円の修正レンジが予想されるも、7341 円まで下げている事から 0.382 を超える程度の修正を見せている。特に金標準先物は、金利を生まない商品であり、金利要因が価格に大きな影響を受けるが、白金標準先物は景気商品であり、需給要因が存在するだけに景気の動きに影響を受け易いため、金利よりエヌビディアの CEO 辞任や中間選挙における民主党の躍進から AI 需要を押し下げる材料が影響を受け易い。ただ JP モルガンや UBS は民主党が AI を規制する可能性は低いと示唆するなど、市場には行き過ぎた憶測の動きもあり、下値を模索している雰囲気である。特に 11 月 18 日は WPIC 第 3 四半期 PGM 需給報告を控え、また 2027 年は南アフリカのプラチナ鉱山での 5 年ぶりの賃金交渉の年を考慮すると現在の価格水準は 2027 年に向けた強気のエントリーチャンスと思われる。

＜テクニカル＞

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では MACD が維持し、シグナルは上昇している。RCI では短期は下げているが、長期は切り上げている。特に指数平滑移動平均線のレンジが縮小しており、7800 円に向けた戻りに思える。

2026/11/16

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

〇商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 6,150,000 円（2026 年 11 月 16 日現在）です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。 〇商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。 〇商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 85,360 円（2026 年 11 月 16 日現在）です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社（商品先物取引業者）の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当（東京）電話 03-5540-8423 （受付時間：平日 8:30～17:30）

証券・金融商品あっせん相談センター https://www.finmac.or.jp 日本商品先物取引協会相談センター https://www.nisshokyo.or.jp